

卷之十八二於于外科説約四套全戶終り略水 ノ一科の缺ケり故二英國,大家ドロイ 科說約卷之十九 外科ノ綱要ヲ説了レリー 尤ムルフタレ 以于其缺了補了覧者幸二順序,不齊十 外科書ョリ盛牙病篇习摘取シテ爰 逸牙病論 雖も恨ラクハ茂 石黑忠惠 篡述

嬰児ノ銀 盛 生セントン リ著シク指 シテ盛 二觸ル、二至り外二向テ割破スルラ法ト 其一盛銀截開街 利ナル細光刀ラ用と横三刺入シテ 開心如ラ鴻スへレ又盛頭直二粘 肉 テ出 頭ラ全ク露出セシムへシ此二術 炎腫シテ其質鬆軟トナリ或八萬牙 頭二觸儿、片八益二沿ファ 難キノ徴ヲ見バ直ニ小刀ニ 膜 深 D テ

其二永盛亂生

大益或い前為甚シノ前二突出スル者八其 派 此 选 テショ押 拘 法ヲ施シテ患者十四五歲二至ルモ尚効 症ノ原 牙交錯と緊シの逼靡スル者ハンラ技除ス 對シテ下盛ノ尖頭上盛ノ後二納ラサルフ 觸,前齒上盛ョリ前二突出之或ハ正と ラズ何レモ惠児二論シテ常二自ラ指 =優ルコアリ〇児童=於テ其ロラ閉 白盛中ノ一個ヲ拔テ餘地ヲ設ル井ハ 因 靡と自然,位置二就カシムへと 八點骨被小或八其異形三在儿丁 若

平常上盛ラ前方二押靡セシムへレ又或八食匙 タを留き、オミーナ 成盛殊二下鳄二生ス八者八甚の創生し易りし り此症二八患者ラシテ自ラ舌尖或八指頭ニテ テ或八横二外若クハ内二向テ突出シ以テ頓肉 スヘン切此スルフ日々慈ルナケレハ遂三整然 ル位置ヲ得ハナリ然レ氏此簡易ノ法方皆効 時八宜シク盛科専門ノ人二就テ治ラ乞フ 端ョ上盛,後際二桶三口ヲ赎閉シ旁ラ匙 挺杆トン上盛ラ前押ン無テ下盛ラ後二押

其 白盛三向テ突衝之或八後方下蠲骨ノ冠状突起 蓝 中三埋没スルファリ但シ上下齶骨ノ腫瘍 單 ノ盗开ノ發生異常ナルニ由テ亦社々之ヲ發 後害ヲ残スフ チノ一部 \* 甚 疆 7 7 刺衛心潰傷习生之又八前方二隣接也儿 其三萬牙破折及脱出 シキハ骨質中二穿入シテ骨種ョ生シ ラ以テ破片ノ稜角ラ圓滑ナラシ 破碎之方尚水盛瓤管三及八 ナシ然レ氏盛頭全断シテ新管 + 者

ク脱出 滋 槽内二納メ絹 瓤 要之アリ 此 夕来前年 ラネジーナ 解スル者ハ速 露出し随ラ疼痛甚シキ者ハ先ツ硝 為 瓤 接合セシム然レモ續發ノ炎症二由 肉 三較着固定スルノニニテ足レリ 一唯慈 习焦 肉 ス 稍、 12 灼シ數冷水ニテ含漱セシノ疼痛感 園キニ至り假盛ラ作りラ 中八其出血止ムヤ香ヤ直二之ラ舊 症 根疎解スルノミニテ破 二於テ八細キ網 糸=テ隣兹=繋着シー切明明 カニ抜除シテ可ナリ〇又衝突等 杀、 7 石黑的湯光 新 折 但心為牙全 用 酸銀ョ以テ 蓝 方 滋根 テ セザル ノ根 之月隣 踈

盛开ノ表 瘍蟲 = 及と以テ劇甚ノ滋痛ラ發スル者之り調為る 禁之且無テ盛銀ョリ 瑯 家及に榮養不給ノ者ニ多し且 ョ客スル諸件八皆之ョ増悪ヤシムル者ナリ 質ノ發生不全十ル二因ル者ニシテ殊二腺 妊娠及と授乳二由テ往々此在了發之又體力 義下名以力盖之此症八盛开ノ骨質及之法 四瓣蓋 面軟化壞爛八漸々侵蝕之遂三慈颜管 漏血シ以テ炎症ョ防ク 都于全身, 健康 乃 病

外和訓教 教 公十十 療法 由ラノニ持發スル者ニ非スメ勞察或八腺病等 或 虚 习益護スルフラ得セレムへレ或ハ又其廢敗性 揑 ル 脱汞劑誤用等一如丰城惡十九疾病二續發入 境深,侵淫シテ盛熟管二及了者、豫, 八銀膏若のハギエツタペルシャト硅 如井全身病二起因スル者ナリ 和スル者ョ以テ孔 肉ノ潰壊ョ治シテ自ラ骨質ョ化生と以テ之 アリ益シ齲齒八單二琺瑯質ノ破碎スルニ 麟盛,敗壊スル部、盡り到去之後黄金 内ラ充填スへと然と 石黑色

香絮 全 敏 假之, 良 柔 7 勿 瓤 軟 遏 ,, + ラ浸 7 肉 水 脆 球 ス 4 タ要 遏 許 而 弱 為 ì 乃 i 分 止 , 主 至 出 9 冰水 础 テニ三日 f ス ルヘン然 血 テ 丰桉 儿一片 未 冲 بان ル 石 29 マサ 法 者外 9 7 止 所置 ハアレラ 引 +痛 n , 越 マサル レ氏 毎三之 "楚 内 者八 綿 + 瓤 7 二入レ 若 管内二人レ更 施 斯シテ後更 ラ以テ其上 7 時 硝 7 シ 凤 以 酸 交 鉱 要 換心 7 銀 肉 ク 瓠 2 7 7 7 肉 テ 盎 充 心心 排 決 テ 7

外科部然 教 恐州が 7 和 ス 至 尚 要之 1) ル 細 之ヲ所 スル者ョ 清諸 流 中 31 水 レバソ 出ス 數 " ヲ錐 アリ 孤 綿 置 病 华 以テ孔ョ充填シ 許 ラ用 二於 ル 乃千少許,假 スル 開咀野ノ用 後 シテム ノ「ギュッタペルシ 力故二假令 排 泄全 井 ラハ其乳蔵 フルフ前法、如クシ排 25 额 ル上マサルモ 管內二通 自 ラ其 三適スルナり 添假按 瓤 兼 為納 病 肉 添= 9乳 發減スルモ.此 テ ス 苦 へシ さ二陸土 趣 慈症二注 ラ免 絶 肉 斯 へス 7 主 侧 泄 ヲ湟 业 目 面 止山 兹 12

甚 クフラ禁スト 之为為少三點骨族小トナリ後来永盛ノ發生 乳盆八假令麟盛症二唯八七之月按除又八片 方リテ其互二緊迫スルノ恐アリ故二乳盛八枝 綿絮,以于其孔力墨丰食物,抵觸力防 安説ニレテ電モ恐ル、二足ラスト云へり故 病 物盛頭三觸レテ痛フ發スルカ為二其児咀嚼 シキカ或い趣 益ト雖モ猥リニ技除スルコナク若シ痛楚 然レモトーと氏ハラレ全の無根 肉炎腫スル者若りい飲食り際

食其 都方落 食 就 スルモ 兹 痛二數 中殊二肝 = 由 物 二 及心都テ全身,健 直ニンラ一般 セスシ 其 肉炎 开,壞敗速力二增 妨 テ + 五越痛 動 種 テ完味スルフ 油鏡 E アルフ 兹 が、一次、一次、一方が、 スレハ 牙破傷シテ 劉等 典 迫之或八冷熱苦りい 左 り如シ 康 额 肉 ラ客スル諸件= 進入 フへ アラハ 損傷之又冒感 瓤 ルモリ 肉 速二之习找 曝 露ス ハ内 酸 攝 味, 几市 由 服藥 テ火 生

一脱 起心為ノニ兹牙疎脱シ骨膜及と趣肉炎腫シ 苦汗線ナル者=ハ甘汞コロシン上等,下劑 二前條二説リカ如クスへシ患者執症ヲ無子舌 除スヘン然レモ科用ユヘキモノハ先ツ孔 法 ラ發シ易シ其症候、劇痛忍と難,盛質非常 物ョ除去シ次ニケレョソートラ用フル 服センタ肉美汁ョ與八温蒸劑ョ施シ温湯 三 慈槽内外二腰腫ラ發ス 弱 トナリ兹槽中ノ軟部二於テ炎性浸潤 咀嚼,用二堪へサルモノハ連ニシラ核 内 7

女来前然 在然干が 其三級肉知覺過敏 病盛ト降盛トノ間ニ於テ根ヲ咀嚼セレムル等皆之ラ試ムへシ 盛 スル二宜シ其他濕血ラ施シ或ハ小刀ラ以テ病 大意三重炭酸曹達一茶匙ラ和シ以テ數四含歌 非常り劇痛ラ發ス此在ラ治スルニハ深り趣 ノ両 依的児、上軍事了口、水ルム」上龍腦磷酸依的 トナリ疼痛シ若シ食物誤テルニ觸ル、キハ ト明礬ノ溶液ラ含散剤トナン及に必列為里 側二於テ深ク銀肉ラ載割以骨面三至 較海綿状ラナン腫脹シテ非常二知覺過

其三神經痛 神經性齒痛八其齒升,健全十儿 發作シテ後忽于退+其間歇時多少整齊ナルラ と緩下劑等大二効アリ ラ無用シテ良効アリ 以テ之力強トナスへ心乃千婦人妊娠,初期 於テハ大概此症ヲ發シ又虚弱家モ往々之三雅 ラ截割シ軍等,含敢割必列為里根,咀嚼劑 易シ 其己二少シク鱗蓋症三惟ルトニ論ナク卒然 大量,規足习典へ且緩下刺及上變質

い時トレテハ健全無恙ノ茲三發スルフアレ 骨質ヲ殿着シ以テ盛牙増大スルモノアリ此症 其五一右二舉 八路症二由于間為开中二過多 八 劑火量ノ「コルシキュムラ無用シ次テ塩酸安母 之 技除スルモ更二十効ナク唯青汞丸或八下 其四樓麻質私性齒痛 尼 始り蔓延シテ盛サニ及ホシ諸盛交を疼痛シ 概麟盛或八破折スル者二於ケルラ常トス 亜半了宛四分時每二之,與八或八沃陣加僧 - 幾那劑ヲ伍用シテ効アリ 教授手が 以在二於テ八疼痛解 K

盖 盛 ハ外又他策ナシ 子為外延長三十脆 去スルラ要ス 傍 適セサルニ至ル其原歷迫或ハ動肉炎又ハ汞劑 牙壞直二雅ルヤ穢黒二變シ珠解シテ為情 少兴症 發入此劇痛八時 拔去 以下校 り組織發炎シ患害ヲ起スモノハ速ニンラ 用二因テ發スル者十り益 其六齒升壞疽 其七核盛法 弱 十十月頑固,疼痛,發 少此症一由 丞

得 ノ手術ト異ナラス即チ山三用 智熟と以テ始メテンラ活体=及ホス可キ丁他 1% ~且以シク心ヲ用フル井ハ容易ク之ヲ行フラ 琪 凡 以人身ノ疾苦ヲ救治セント 于荷を良醫タル者八此核盛術ヲ能セサル 可少然しに亦其技倆三巧ラナラサル片八往 タタル小 測ノ災害ヲ招ク 盖以接為一件夕几甚夕簡易十川器具了備 ノ造構ラ詳カニシ且屍 技 然手が ト雖も豈之ヲ忽ニス可ンヤ是 ナキニ非ス故二先以際メ 外一就 欲スル者、假令 フル所ノ テ 共運 用ラ 者

其 八嘴端自ラ盛上二滑利シテ其頭ラ固壮スルノ 職端火鋭ニレテ深ク級 故:兩嘴微シク内方:彎曲シ柄端ラ握ル井 子養沒及已遊鍵是 七種,鉗子ラ備フへい即手其一第二百二十 圖三示スモノハ左側ノ上臼盛其二第二百三 テ茜槽縁ノ接際二於テンラ固 テ恰好之。適合スへし是ラ以テ醫家宜し 千八方今盛科:於ラ専ラ用ノル具 鉗 子り嘴端八四四ラナン各盛,形状 肉上盛 頭上,間 柑スルラ

其 五 用 第二百三十三圖:示 圖 四第二百三十二圖二示スモノハ 9月ヒテ 慈 示 圖 ス 他上齶,斷齒 明 圖二示 状 即 ス 又下齶 ル 千以 種 右 数無濟 スモノハ 上圖 ラ核リニハ第二百三十七圖 一个 他十異 側,上日盛: " テハ第二百 根列 スル所り ス 左 ナレハナリ其三第二百 モノハ 柑 右,下臼齒 去ス 用 三十五 上 ルニハ フ盖ン以上日 犬 犬 盛 兹 = 通 都 选 圖 懿慈 二百 用

二百三十八圖ノ式二法ルへと而シテニ。段 術アリ即チーハ為根ヲ疎解セレムニハショ 之前後:向テ輕り動揺し盗根疎解スルニ至 々之ヲ動揺シテ其根ヲ緩ノ微シク後方三押 直三技去スルナリ上鰐,蘇盗或八大為习族去 ルニハ先ツンラ固州レテ後三轉戻し熱ラ輕 直チニ奉下スへレ又下翻二於テハ之ョ固 直上三奉テンラ枝クへシ二尖盛及上臼 槽突起り破壊セサルカ為ノニショ兩側接 云ルニ方于動揺し球解スルリ挨を上或ハ

其二義節 其三蓋鍵 是第二百三十六圖三示スモノナリ 其支点トナンテ盛根ラ橇車スルナリ 握シテ鉗子ノ運轉始終其拳ト共ニスへと然レ アリ国シク注意スヘン 下三率キ核去ルへと但と行者宜とり針柄の固 技除スル三於テ甚タ便ナリ乃チ其米端ラ 平ナランノ送槽縁隣落或八術者ノ指ラ以テ 亦其力强丰二過八片八盛开ラ破碎スル人恐 根ト槽縁下ノ間ニ刺入シ次二篦ラ押シテ 此具八折萬人根株及七老人人就 本主統 兹 深

細 强 支 大 北 粗 全十一盏 具 類 槽 烈 過失アルドナン例 適當ノ者ラ撰 点、 批り極ニシテ ナリ 7 自 ナリ リーン ラ碎 1 高 秋 或八鍵 且 7 破之或八銀 7 其 レ氏 拔 クレ 使 用 去スル 論スルニ足ラス但心器 冰 ヒテ三兴盛及と白 テ 用 "且支点,位置 見八針 恐 拙 川 肉力、 鉤 7 労ナル時八銀 之ハ兹 アリ 幽 盛りり 刺 子二比スレハ痛 士 間 強ニテ 鍵小二失スル 越 然レド 滑 冠状部 適宜ナル 水, 萬,技 是等八盖 脱礼 肉 壊 械

骨質甚夕脆 九 出 第二百三十六圖三示ス所八鍵ノ使用式ラ示 鉤滑 説 テ ファリス 77 後 白盛八之月 臼 脱シ易り或八萬槽, ラ "據一八上鳄 之月 盡二於 斯 ス 2 弱 何 損 其 如 ニシテ 1-ナレハ共支点ョ 大三週クル井八支 テハ支点八盛 丰時八多以正直:慈糟ョリ スルフナシ下鬱,二米盛及と 外 面二於テスへこ 動モスレハ ,成盛二八決 損壊スルー大ナ 翻 損 点低 内 但 テ 面一在 明勿 下 7 拔 用

術後甚シク出血シテ社 其 肉 鉤 次二冷水月注 レ或い盛 チツ通 鯛 施スへら即于文派ノ 久シク病山者二於テハ銀 甚シキ者ハ先ツ為 ラ以テ銀 シテ填塞スへシ又 其八核盛後 例 槽ノ下底二在八兹 肉 鍵ョ用フルニハ強 十兹 射之或八過 ノ出 頭十月刺 槽内ノ 々危 血 細 此法効十十十八左 格曾児鐵 條ヲ取リ先ツ其 峻ラ招 古 動 離スルラ要ス 凝 肉 脉 メ戯肉 血习悉力清除 組織ョリ出 ヨリ 稀釋液习綿 刀或い小 ì 7 或" 並 鑿

其 者 殘 週 越 之ラ生スコレ恐り、其睡管口三近接スル=由 固の慈槽内二押入シテ深底三達セシノ順序 石八津 キテ シノ更三一條り納帶ヲ用テ願下ヨリ類 餘 ナリ 許り、充填シテ盛銀上平面ラナスニ が細 編 而シテ上白盛及と下数盛三於テ家多力 其 條ヲ剪去を厚キ歷定怕ヲ其上三置 縛 垂中,上分沈殿で下路牙: 凝着スル 九盛石一名 スヘシ 垂 石 至 公頂 ラ 住

療法 由 又常三驚 軟 遨 弱 及七石 其具,兴 溶崩 一盏石大二凝 強 間二窟入シ易ケレハナリ」己二盛 八宜シク剔 ニシテ級 り之う務防スへも盖心盛刷毛八可 龄 7 石 吸收を遂 翻ョ以テ作 ノ凝 頭 密 以 或 着 テ盛サッ清 11 盛具ラ以テショ ナラサル 堆 三兹 い輕 因 サラ清刷スル スルト ヲ兹 軟 开 者 疎 7 12 石 解 十日 7 翻 磨 スルニ 撰 趣 肉 除去 盛 12 肉 7 フへを 發 用 粉 炎 至 石炭 H 間二 堆 及 凹

K シル へら又時トンテハ盛石ノ 此盛石八亦容易り除去スルラ得ルモノ 刺戟三由テ不和人感覺ラ 頭司包三子兹頭习歷定之其動搖疎 脂 香假添方 力之 溶和 依 - 7 7 レショ少許り綿絮三浸 兹 的児二溶 剥] 孔ヲ栓塞 東軍 再 離スへも 館酒精水 月 和スル者コルロデョン スルニ妙 但之此時八手中ラ以 小片盛管口 代用又香 起人了 71 7 " ラ雅 解ラ防 然 + 7)

依的児製單寧丁幾方 亞 力口 右混和 右溶和 龍腦格魯魯保見母方 單寧一号 乳香一多 砒酸加莫児比涅方 龍 亜 ギュッタヘルシャラ溶解セル者等皆同 一社酸末 腦一写 様り効アリ 塩酸莫見比涅各等分 格魯僧保児母半ろ 硫酸依的見 污污

之然 册州

入ル大 決シテ 回 用 右二味ラ 枯入し其上ョリ蝋ョ 漱力 法八綿ニテ 疼 四 縣 i u 痛 中二八川中毒スルラ 小 下セシ 止ムラ 尤 七頭=ラ 小 ŧ 球 插 候 蝋ラ シテ握 بر 1 7 入中八座月吐 兴藥末ラ附 調 怀 為之 以 勿レ 和 出し清 テ 恐レテ 封ス 熟盛/ 一高四= シ 但 出 水ニテ テ兹 + 亜 1) 和比

而

補遺

置複 書入シラインハラチョント名ッり藥汽吸入法 ノ義ナリ以法ョ行フ器械ラアドョーゼルト名 九 ク藥液 ノトス其價を亦夕二圓金三上ラズ之ヲ用 圖=示スリンヤルドソン氏ノ装置ラ簡 并二氣管,粘膜病或八肺病: 較介八藥液 氣,送り直:患部三達センムル新法 藥漁吸入法 ノモ,八醫家常=備難し故=第二百三 亦頭八單簡ナリ 細分器、養十り以器械數種アレル

越 以以其 4 液 喉 用 # 頭 他 但 石卤 瘦 水机 斯 又 和火 料 膜 膿 111 硝 溶 水水乃 咳 症 黑 等 一至 酸 写至 液 八半 力口 色 隨 答 水瓜 銀 ++ 写四 7 鎮 14 溶 者 稍 分 八人 児 一乃 テ 變 一种种 靖 液 酸明 写至 阿 水乃 一重八 銀 礬 片 " 量 ス ス 7 微 等 溶 溶 石 ル ル 用 写二 加 食 炭 幾 液 温 + 液 = 7 7 7 湯 酸 用 水 1 12 塩 瓜五 時 滴二酢 水 水瓜水山溶 7 7 一乃一乃液 又 水滴 用 酸 = 肺 莫 " 写至写至 十十 一乃 E 顏 爾 倍倍 AA 写至 = 尚 等單水乃 病 面 PD 非 活 寧 涅 7 撰 被 酸 写二 水 1) 沃 # 覆 用 溶力 和分八 テ

燕 液 歷 充分ロヲ開カシメ術者ゴム球八ヲ握 エジンボルフノ大家博士リステル氏近年外科 分時間持續之藥液一写乃至二号ラ吸入センム 汽間新ナク患所二散布又通常五分時乃至 械,用法八第二百三十九圖,硝子墨丁=藥 ヲ法トス 縮シ一個八弛緩シ一縮一弛シテ休マサ サ入し 嘴先回 ラ患者ノロニ向ケ患者ラシ リステル氏防腐治割 ド水ヲ用 7 间

或 士殊二軍醫八行ラ教ラ受ル者多し其法替べ 防 處職腫又八血湯ラ截 面 水上大氣上二一種 八外科 身体ノ ナシト此説專ラ歐州二稱感セラン各 ョリ魔人スルニ起因ス故ニカラ把 新法ラ發 症ナシ此二用ユルニハ石炭酸三如 術二於テ不良ノ繼發症ヲ發スルハ多 組織习截 アラズ 明セリ其説二日諸般ノ創傷膿瘍 開又八刺貫スルニハンラ際 此豫防充分十レハ必ズ不良 /有機性 開セン トスルモノハ 小細胞 " P 國 針 リテ ラ用

截 四 炭 テ鴻 乃至 器械并二雕定巾撒 石 日 石 冰 開し膿り泄スト香や直二油 酸 クス其 法多 炭 炭 水ノ蒸汽ラ散 酸水二浸シ湯面二八藥液細分器二テ 百倍/石炭 面ラ覆と機經定中ラ置キ網帯シテ 酸水中二浸在又但心 放置レ網帯ラ換フル時二七亦多前 用工或八石炭酸水中ニテ施術シ思 他截断截除等人諸術多行 布センノ始終其蒸汽中ニテ 酸水ラ製シ此二用 終網带 一代者, 此 法二様レバ多 絹ヲ石炭酸 フニモ亦皆 A

八第一 得 鴻 法 謂 頭 重 暗 7 儿者 ス ナレハ膿量著の減少心惡性膿ハ著の良 據 所 緑 緩シス 眩 テル氏り 期 石炭 暈 色,尿 テ 右 癒合ラ 外 1 胸痛シ 如シ 酸 科 麻 ヲ利 所 術 水 然と 7 得 痹 説 脈 稠 并二其 厚 i 行へが石 經發炎ヲ見ルコナシ加之限 軟 ョ遺 任 咽 ナルモ 弱 スト 喉 亦 1 + 説= 或八其 = 炭 7 云 不 1 快 左 冷 酸 7 7 1 用 然 中毒人諸症 説 汗 祖スル諸家ノ 灼 7 ユル 7 痛 辨 論シ此 7 性 覺 創 即 百

諸般 患 行 石 以う癒合センムルヲ法トスル 加口 炭酸ョ費スト多り其價廉ナラズ故 此 以 2 レ今三至テ猶聲價高シ 业法= 等り症 テ備信心難レト然レモ三四年来以法大 此法 = 據 ノ創面、維接スルカ或八絆創青ヲ貼 施又可 創 面開放療 據 ラ發スルフナン又或ノ説ニ據 テモ第一期癒合 クシテ一般 ラズトを第一期 法 1患者=施ス 癒合ラ ラ得 八吾人り知儿 サ 得 1 高貴 可 ア

並 か 社 り然ル二近 和蘭海軍醫事雜誌二次テンラ知レ氏未 義治法 療ス ラ其 疑惑ラ存シ實地 新し其動脈ラ結繁スルニ方テーや結 截斷,外沿法 血帯ヲ施レンヲ下脚下三分ノーニテ 進君日耳 九法 施術ヲ觀 1 時歐州ニテハ創 名 アリンラ「ラーペンベハンデリ 曼 ックト予千八百七十三年 儿 是 ョサ縣 ナシ 三試ルフ 君 直 7 部 壊 チニアスマルク 外科:秀名 症/患者ア ナン近 面ラ接着セズン 日ド アリ 鏤行 7 クト 充 氏

寬 剪除入予疑 何 ヲ合 貼 生合スルノ良善ナル ロット氏ノ諸家此二姓合ラ行 ト而シテ己二動 三布中二テ包裹レ大 自 維接網帶セス予因テ問 心後日脈管口癒着スルラ候シテ 然二委シテ セザルヤ君日方今ラーへンベッキ氏 トス全一々之ヲ結處ニテ朝去ス其故 テ以為り動脈り結繁縣ハ之ヲ創 脈ヲ結禁シアルヤ割 自 ラ肉并ラ生シ四 枕ノ上ニ安ンズ 日何り維接 兴法 緣 擢 處 + 名 出 部

患 ケテーウーペンベハンデリンク」ト云ス君 か,一ヨリ截断心截後第十三日ナリト 良 者ラ示サル是を亦足部ノ壊疽ニレテ下脚 徑一十許一割 創口ラ觀ル二幾二撒系ラ以テ被フノ三而シ 好り肉并ョ生之皮膚四方ョり生合之幾二 ハ、一患者ヲ出シテ左證 貼い網帯スルノを亦善良ノ肉芋ョ生シ皮 微 亦 ナリ其他乳癌截除後ノ婦人一人ョ示 割ロヲ維接セス唯截除シテ 面ョ遺スノ三腰汁ノ排 1-セント則チー 迹 撒 泄モ亦 若シン 云

歐米ノ諸家猶經合ラ賞響スル人アレモ書シ - 又ンテ積疑水解頗ル悟ル所アリ 唐生合以僅三銭大,創面,遭又忠惠之,觀 以テ後學二論レ吾學愈開クレハ愈自然二近ク 愈進ソハ愈單純三歸スルノ 全身一諸部皆十以法二因此可十二八非 此章ョ書レ了テ千八百七十四年十月鏤行 和蘭海軍醫事雜誌习緒閱又止二開放治 センガ其論長クシテ一小冊ヨナス故三此 論スル一篇アリ因テショ以篇ニ加へン 證トス 义

近時 性質効用トモニ同僚足立寛譯述,敏氏藥性論 十五年七月ノ醫事新報ョリ其説ヲ敏出シ左" 同書二之り載セズ然レモショ外 詳ナリ唯撒里矢児酸三至テハ軍モ新樂三メ 石炭酸ラ以テ巨擘トス而シテ此等ノ品類ハ 加へズショ手術篇三加フ アル稱學時マタリ因テ米國新約克千八百七 新出ノ藥物ニシテ偉效確實ノ品類數種ア 中外科二必要ノモノハコロアルヒダラ 里矢児酸 科=用とテ卓

的児 成 · 益 撒 新 リンラ稱響スル人ナ 録 逢スレハ美麗ノ紫色サ呈 耳曼ライブン 里矢児酸及七其塩類八格魯児鐵,溶液 一遭 介 報 安息酸三酸素一和量す加へシ 安息酸,酸 ナルモノモ 但心第十七第十八兩卷二所謂 編 者ドクトル 亦 7 化セシモ, 此品類 府ノ博士コルベ氏八數 ルトン ナレ氏此酸 ス 氏日 + ラン何 撒里矢涅酸 + 出 子 加經 亚

ラ酸 亦 明 驗 等二陰膣子宮。 1 峻 ラ積 タ毒害 月 プシッ 烈 1) シテ 水三百分ノ溶 テ撒 葢 + ヨリ ラ ナキ 洲 i ズ 撒 撒 府 以 里矢児 故 里矢 来「ラルセルピュルペラリ 産 1-里 ,注入劑 种 矢 "爱"石炭 云 児 酸八防腐,偉 液或八撒 児酸ハ防 病院二於テ八千八百七十四 フ人アレモ 酸 并二外 7 用 离 7 酸二優レル 里 其 布 , 矢児酸一分殿 不佳, 方機 劲 劑 二八 効アル 石炭 臭 里 味 矢涅 酸 石 7 ヲ 7 モ 炭 發 酸 瘍婦 一酸

見 効 五分,混 酒 酸 見ルフナク且患者火シモ不快ラ覺ラル 起 溶? 士コルベ氏ハ一患者二一日半 二溶シテ二日 其 人體二入テ害アリヤ否ラ確 ス 「優ナリ コナク 十分トナン數 後八日間 和末月良 亦少尿中二撒里矢鬼酸,痕迹力 体服 間 十八此容液散劑习用 用ヒタリンニ消食機二變常 心復夕一日一起蘭以、火 日連用セシニ毫を障碍す 認 瓦蘭 7溶劑 セントシ

各第 洲 内 ラ 見 同 酸ラ ズ 服 氏又と其徒第八名此經驗ヲ再試セントンテ アラビヤゴムナ ヘプシフ 服 皮水四十五 一日 = 里矢児酸 磨萬粉或八含漱 用 トナス 親 撒里天涅酸一瓦蘭第二日二一瓦蘭 試センニ些火モ體中二障碍アルラ 府 一元 = 1 博 左 拜 毛 蘭 方 士ウンデルリフ氏八兴酸 簡 蘭 ヲ伍 劑二伍 甘 甘 扁 扁桃 用 桃 ス 油二十 舎利 用レラ 別 五 劾 廿五 蘭 アリ 丸 蒯 ラ

試 X 同 驗 皮膚 氏ノ説 此酸一萬 水八變 水 ルベ氏八散 =甲乙二個 7 擴 7 レテ 檢 3 充レテ 7 共 敗 ス 八二温 洲 吸 ì 12 分,一 1 酸 攻 里 貯 テ 11 矢涅 甲 室 水 飲 水法二 7 中二 7 桶 桶 飲 ルヲ 料 酸ノ浴法 水为 加 二河 1 = 認 用 供 貯 水 ビバ其 貯 スル 八室を變敗 し 水 7 7 活 桶 7 保 4 12 ラ 7 旗 貯 ス 7 n-試 神益 四 へ甲 水 ニ・ハ 驗 週 ス 大十 盖 良 桶 y セシニ 何 效力 ラ 2 训 F 水 ア 桶 カロ

外科說約卷之十九然 大学が用が 然外の問的を以及

外科說約卷之十八十九圖式

第百八十四圖

大腿後面上腓腸ノ癒着ヲ截離レテ絆創膏ヲ貼レ



忽計八 圖式

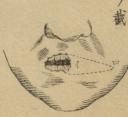
主

黑水燕

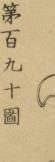
第百八十五圖

ロノ意閉ラ截

開スル式



第百八十七圖 同上へルポウ氏ノ縫合式不 皮層外面回八粘膜



第百八十六圖

同上其二

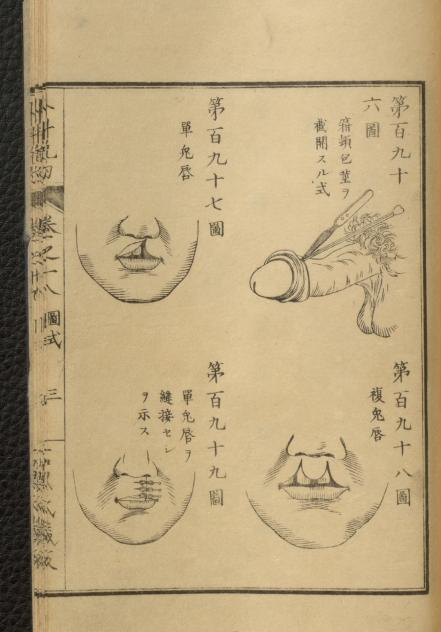
位置ラ点線ニテ示ス 尋常色並ノ截 開ス可も

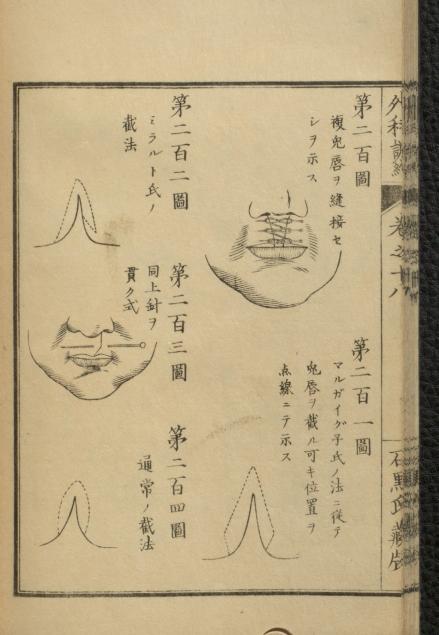












点線八剪去スリキーツラテス シノ創縁 ラ作ル式 口益破裂,問緣ヲ剪去

百五圖

第二百六圖 口益破裂り縫合

四

第二百七圖

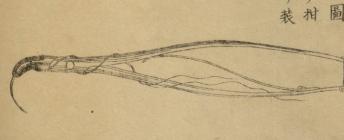
己二縫合絲ラ結於スル 雨側二截入ラ行フモノラ モノラ示ス国ハ維際ノ

示ス

置スル武

第二百八圖 彎小針

第二百九圖 針子二針ラ我ノ村



一件料絕的 繼 然之上人 第二百十 缺損 硬口益局處 合式 同上縫 一百十圖 圖 圖式 第二百十二圖 頸椎破裂 五



第二百十六圖

₩#絕的 **紫**汉上人 圖

圖式

六

- 治理不大性數一級

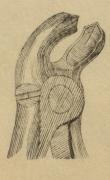
第二百十七圖 膝節內風 第二百十八圖 第二百十九圖 馬足 ①ハガラ刺ス可キ 處ラ示ス

· 卜十九为 髮之上九 圖式 第二百二十圖 第二百二十一圖 内翻足 外翻足 第二百二十二圖 x 扁足 こりお子、父此教之教



N+犯切 € 是 2 上也 第二百二十五圖 第二百二十六圖 第二百二十八圖 第二百二十七圖 圖式 第二百二十九圖 第二百三十圖 左上白萬二用了上鉗子 右上臼兹三用フル鉗子 こかりか、人上教之友

第二百三十一圖 左右下日盛二用了儿鉗子



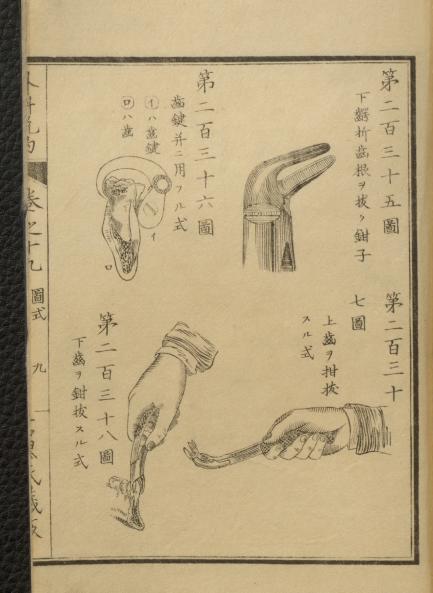
第二百三十三圖 下犬齒鄰齒二用刀儿鉗子





第二百三十四圖 上虧折為根习拔り鉗子





第二百三十九圖 一八硝爆子 説約卷之十八 吸入法习行了式 藥液細分器二十 四八嘴口 レヤルドソン氏ノ ゴム球 八十九圖終

